

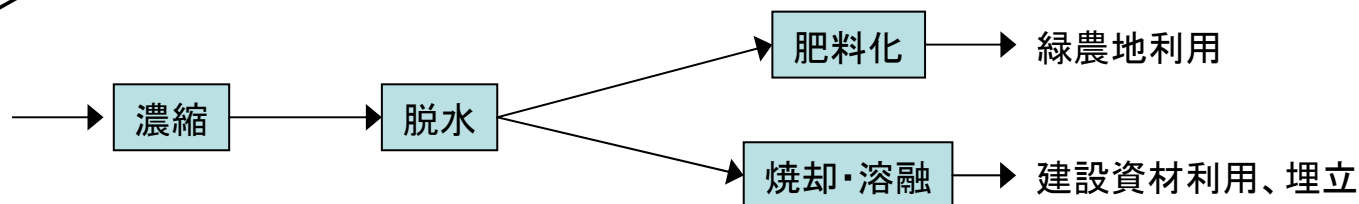
# 論点(案)

---

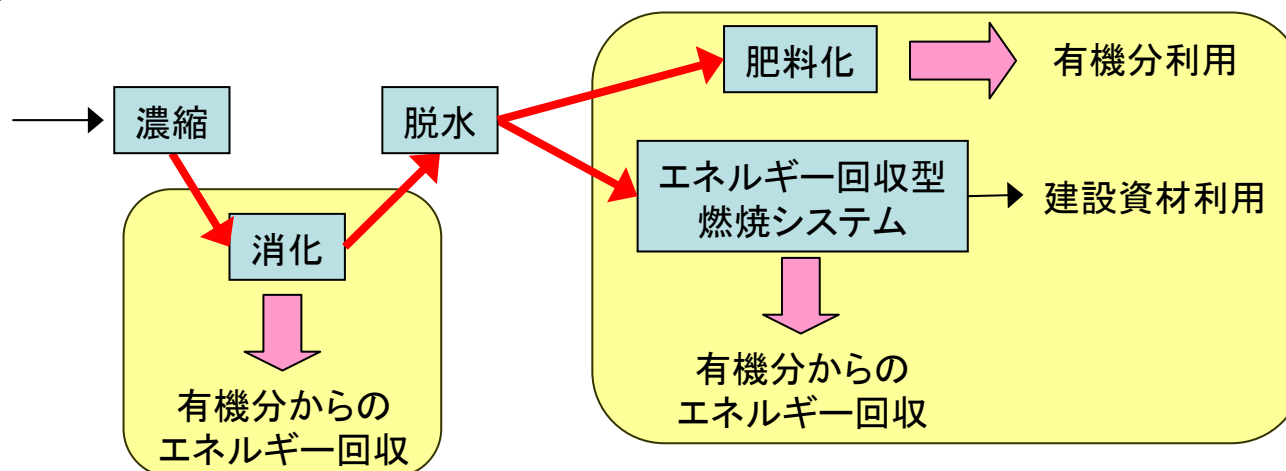
# 1. エネルギーの視点

- 下水汚泥中の有機分の利活用を明確に打ち出すべきではないか。
- 下水道経営の視点からも、エネルギーの利用、自立を下水道の新たな評価軸に位置付けるべきではないか
- 未利用エネルギーの利活用とエネルギー消費量の削減を推進し、国のエネルギー戦略や地球温暖化対策に貢献すべきではないか。

<これまで>



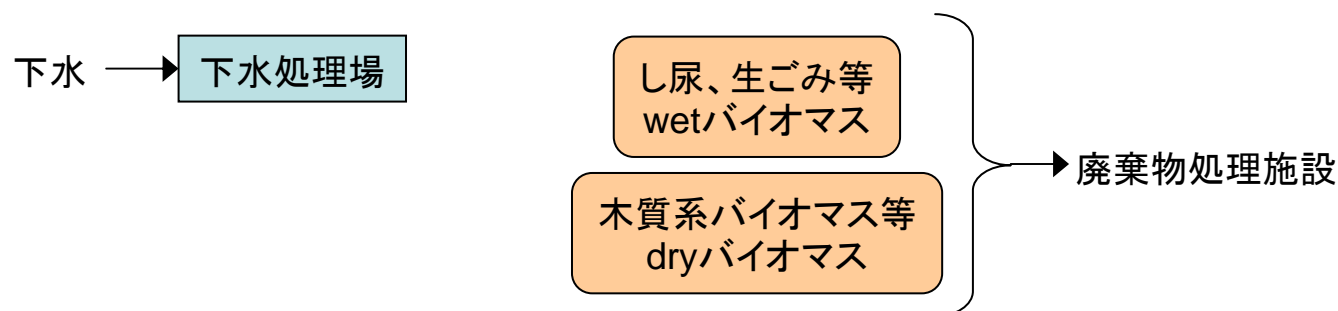
<これから>



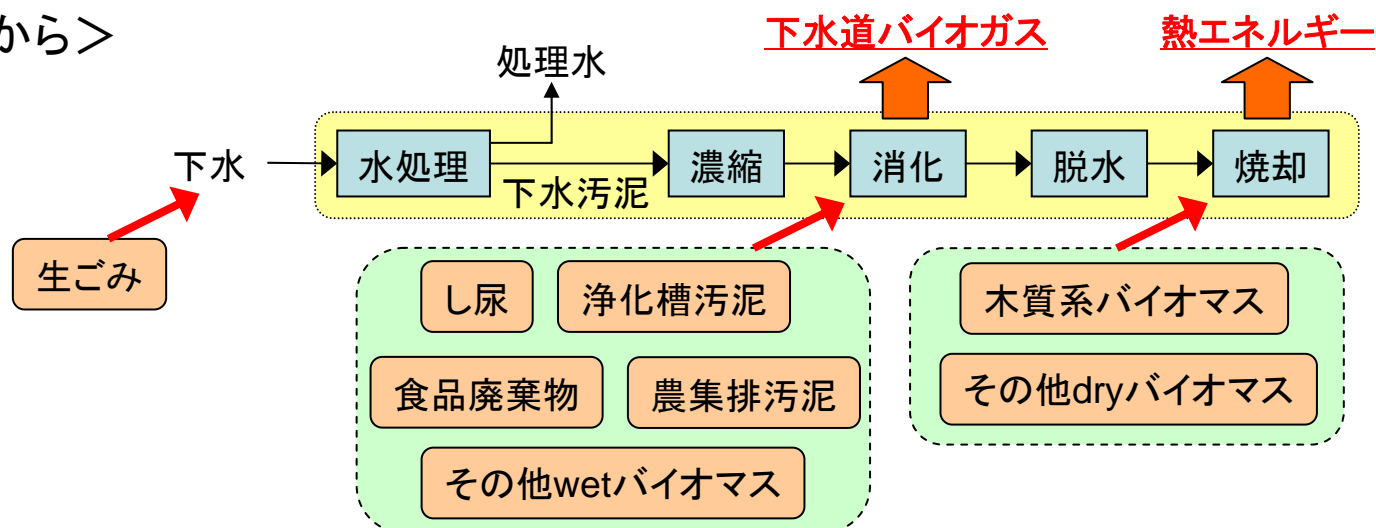
## 2. 地域の視点

- 下水汚泥の処理に係る県全体のビジョンを見直しつつ、各下水道管理者が下水汚泥リサイクルの将来像を明確化すべきではないか。
- 地域の特性を活かし、地域としてのバイオマス利活用の最適解を求めるべきではないか。
- 下水処理施設は下水汚泥のみだけでなく、必要に応じて地域のバイオマスも対象として処理・利活用を行うべきではないか。

<これまで>



<これから>



### 3. 持続可能性の視点

- 下水汚泥の処理の規範を減量化から資源利用に転換し、資源利用を前提としたプロセス設計を行うべきではないか。
- 下水道管理者が有効利用に取組みやすい状況を整えるべきではないか。
- 下水汚泥に対するニーズの変化を踏まえ、効率的・安定的な下水汚泥の利活用を目指すべきではないか。
- モデル事例の発掘・育成を通じた下水道管理者の意識改革が必要ではないか。
- 資源のみちの具体化に向けた取組を社会システムに組み込んでいくためには、国民の理解と協力が不可欠ではないか。

<これまで>



<これから>

